

## 漁獲量の増大を目指しサクラマス稚魚10万尾放流

### サクラマス稚魚放流式

今年で20回目となるこの

6月13日(火)、村水産振興推進協議会(越善靖夫会長)主催により、老部川内水面保護水域において、サクラマス稚魚放流式が行われ、平均尾叉長6.3cm、体重3.5gの稚魚6万尾が村内漁業協同組合長、むつ水産事務所、東北・東京電力など関係者約50名の手により放流されました。

「つくり育てる漁業」の重要な魚種として、今後も資源の増大を図っていきたくと考えています。



稚魚放流を行う越善靖夫村長(写真右)

また、7月7日(金)に小老部川と野牛川へ計4万尾を放流しており、今期は合計で10万尾の放流を実施しました。



放流されたサクラマス稚魚



関係者による稚魚放流

## 東通村南地区製氷センター竣工式典が挙行されました

### 漁獲物の鮮度保持による魚価向上に期待!

6月30日(金)、白糠漁港内に建設されていた南地区製氷センターが完成し、竣工式典及びオープンを記念してセレモニーが執り行われました。

本施設は、平成24年4月に供用開始した北地区製氷センターに続く、第二期施設として、平成28年度から二ヶ年工事として建設が進められていたもので、鉄筋コンクリート造二階建、延床面積1,507.85平方メートル、製氷室、貯氷室、荷捌室などを完備し、施設能力は、角氷日産26トン、貯氷402トンの規模を有しております。

竣工式典では、越善靖夫村長より「慢性的な氷不足は、鮮度保持低下による魚価の低落などから、漁業経営に不安を抱かせるなど、漁業振興上大きな障害となっており、太平洋沿岸の白糠から尻労までを供給対象とした南地区製氷センターを整備するに至つ



式辞を述べる越善村長

たものであり、今後は安価な氷の供給を行い、漁獲物の品質の向上と漁業経営の省力化により、漁業経営環境は著しく向上することになります」と式辞が述べられ、工事報告、祝辞をいただき、村特産のブルーベリージュースによる乾杯で式典は終了しました。

引き続きセレモニーに移り、出席者約50名が見守る中、施設前にてオープンを記念してテープカットが行われた後、船積及び陸積シュートからの氷の搬出状況を見学し、氷の販売開始となりました。

今回の南地区製氷センターの完成により、北地区製氷センターと合せて、村内の鮮魚用氷の安定的供給体制が整うことになりました。



施設前でのテープカット